



国画会の沿革と先達の紹介

国画会の成りたち

1918年(大正7年)文展から自由な制作と発表の場を求めて、京都の青年日本画家小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰、入江波光らは在野としての「国画創作協会」をおこし、その定期展の通称を「国展」とした。

創立宣言・・・「各自ハ各自ノ自由ノ創造ヲ生命トス」
「芸術ノ創作ハ極メテ自由ナラザル可カラズ」
「本会ハ創作ノ自由ヲ尊重スルヲ以テ第一義トナス」

同協会は1925年(大正14年)土田麦僊と交流のあった梅原龍三郎を招き、さらに川島理一郎を加え第1部を日本画部とし、第2部として洋画部(現絵画部)を設置した。(翌1926年が第1回国展に相当)そして1928年(昭和3年)国画創作協会の解散に伴い、第2部は名称を「国画会」として独立し、定期展の通称「国展」もそのまま継承した。

草創期の国画会の果たした在野団体としての役割は、福島繁太郎の影響もあり、毎年のようにマチス、ボナール、ロダン、ブールデル、バーナード・リーチ、ルオー、モネ、ルノワール、シャガール、ピカソ、セザンヌ等々諸外国の優れた作家たちの作品を特別陳列して世に広く紹介したことが特筆される。この事は内部的に研鑽の資となったのは勿論、対外的にも海外作品に触れることの少なかった当時の美術界には非常に有益な企画でもあった。

以後、絵画部に版画部・彫刻部・工芸部・写真部を加え、5部による美術団体として、毎年*春期に日本最大級の公募展である「美術の春・国展」を開催。創立精神である「創作の自由」をモットーに、個性を重視し多様化する表現様式と新しい世代にも呼応する総合美術団体として、広くファンの支持を得ている。そして2007年(平成19年)に創立以来の会場であった都美術館から、国立新美術館(東京・六本木)へ移り、2016年(平成28年)には90回記念国展が盛大に開催された。

最近の企画から

- ・1997年～ 国展会場にて「自然保護・社会福祉のためのチャリティー」
- ・2006年 パネルディスカッション「80回までの各部の変遷と国立新美術館における「表現の可能性」について」
80回記念国展キャンペーン「国展を歩く」記念誌「国画会80年の軌跡」刊行
諸記念展開催(「国画会の画家たち展」・「伝統からの旅立ち展」等)
- ・2007年～ 国展トークイン「聞こえますか アートの声・作者の声 作者の心」
- ・2012年～ 国展PRチラシ英語版を発行
- ・2016年 90回記念国展「90 vs 90+展一見よ国展の底力ー」
- ・2016年～ 国展シンポジウム開催

* 戦争激化のためやむなく中止した1945年(昭和20年)、新型コロナウイルスの影響により中止した2020年(令和2年)、展示中止とした翌2021年(令和3年)を除く。

1970年頃の梅原龍三郎 (集英社現代日本美術全集より転載)

近代日本美術の先達

下記に掲げる作家は近代日本美術の先駆者として活躍した先達であるが、国画会においても大いに活躍し、またその後内外に多大な影響を及ぼしたことも知られている。

絵画部	梅原龍三郎 川島理一郎 山脇信徳 大橋孝吉 椿 貞雄 河野通勢 高村光太郎 難波田龍起 宮坂 勝 高橋達四郎 宮田重雄 柏木俊一 久保 守 武者小路実篤 益田義信 山口 薫 青山義雄 庫田 翫 杉本健吉 土田文雄 香月泰男 山崎隆夫 国松 登 林 重雄 伊藤 廉 宇治山哲平 曾宮一念 川口軌外 原 精一 須田剋太 井上三綱 松田正平 里見勝蔵 小泉 清 張替正次 彼末 宏 小牧源太郎 藤田吉香
版画部	平塚運一 恩地孝四郎 川西 英 川上澄生 棟方志功 畦地梅太郎 関野準一郎 山口 源 笹島喜平 斉藤清
彫刻部	金子九平次 清水多嘉示 柳原義達 新海竹蔵 山本豊市 関谷 充 千野 茂 桜井祐一 茨木敏夫 鈴木 実
工芸部	富本憲吉 柳 宗悦 濱田庄司 バーナード・リーチ 芹沢銈介 河井寛次郎 柳 悦孝 船木道忠 柳 悦博 黒田辰秋
写真部	野島康三 福原信三 木村伊兵衛 中山岩太 北角玄三 西山 清 入江泰吉 吉川富三 清水武甲 杵島 隆

美術の春

96th 国展

絵画
版画
彫刻
工芸
写真

国立新美術館(東京・六本木)

2022年5月4日(水)～5月16日(月)

午前10時～午後6時 (入場は閉会の30分前まで) ※5月10日(火)休館
最終日午後2時閉会 (入場は閉会の1時間前まで)

一般入場料 ￥1,000 (学生及び20歳以下、または障がい者手帳をお持ちの方は無料)

※国立新美術館における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策や、開館日時等の最新情報は館のホームページでご確認ください。



1



2



3



4



7



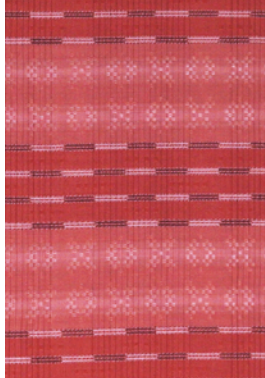
8



11



9



12



10



13



5



6



14

【絵画部】

1. 石原章吾「作品 '21-9」
2. 中山智介「東京 I」
3. 大友良江「New Year homecoming」
4. 神尾和由「追憶」
5. 梅澤希人「Uがのりたかった舟」

【版画部】

7. 神田和也「Thoughtography22-01」
9. 杉浦裕二「それを脱ぎ去り進むとき」
11. 北原進「栓拭漆盛器」
13. 藤森久嘉「夢追う乙女」

【彫刻部】

9. 杉浦裕二「それを脱ぎ去り進むとき」

【工芸部】

11. 北原進「栓拭漆盛器」

【写真部】

13. 藤森久嘉「夢追う乙女」

8. 平垣内清「花の吐息 2022-A」

10. 矢野道彦「点のかたち」

12. 多和田淑子「サンダンカ」

14. 山田朱夏「満月夜」

会 場 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

午前10時～午後6時 (但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後2時閉会)

アクセス ・東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
・東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
・都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分

巡回展 名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

午前10時～午後6時 (但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後4時閉会)

〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1丁目13-2 愛知芸術文化センター 8階

福 岡 展 福岡県立美術館

午前10時～午後6時 (但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後3時閉会)

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神5丁目2-1



www.kokuten.com



twitter/KOKUGAKAI



KOKUGAKAI



KOKUGAKAI

国画会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-16 北田ビル4階

TEL・FAX 03-3438-1470 info@kokuten.com

主催 国画会

後援 NHK厚生文化事業団

日本自然保護協会

巡回展

名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

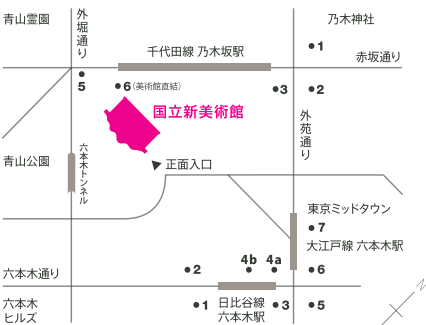
5月24日(火)～29日(日)

福岡展 福岡県立美術館

6月21日(火)～26日(日)

有志による
自然保護・社会福祉のためのチャリティー

国立新美術館展示室 3階



※美術館に駐車場はございません

第95回国展(2021年) 受賞作品一覧

準会員の賞



1



2



SOMPO美術館賞

絵画部 宋貴美子『escaping girls』



3

準会員優作賞

- 1.絵画部 米田貫雅 『Integration area』
- 2.版画部 栗山薫 『罪深き男の記憶…Y.M824』
- 3.工芸部 下地康子 『あけもどろ』
- 4.写真部 源谷進 『童』



4

版画部準会員奨励賞

版画部 大隅東也『Divergence 2105』



T氏特別賞

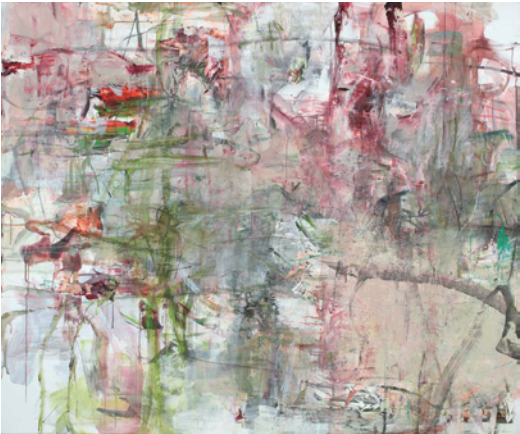
彫刻部 宮崎みどり『春の傷口』



国画賞



1



2

- 1.絵画部 成田淑恵 『VOICE…Elephant』
- 2.絵画部 松林彩子 『音楽シリーズ“Contrast II”』
- 3.版画部 布施滋子 『記憶「回想の移動」』

3



- 4.彫刻部 早川信志 『胎動』
- 5.工芸部 水口よお子 『春光』
- 6.写真部 松尾エリカ 『蜻蛉』

4



6



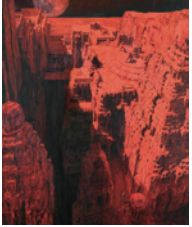
新人賞



1



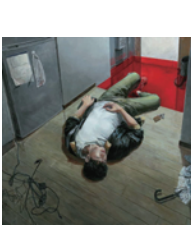
2



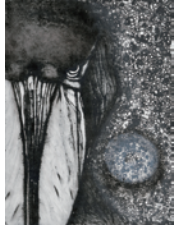
3



4



5



6



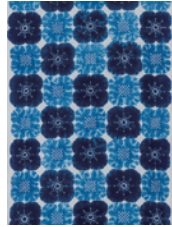
7



8



9



10



11



12

絵画部

- 1.大楯和美『ローズカラーウォール』
- 2.金山波也人『檸檬から庭園まで。』
- 3.嘉陽美彌子『運命』
- 4.鷹取貴美子『卓上(II)』
- 5.山田美智子『膿溜り』

版画部

- 6.池内通子『太陽と月に抱かれてIV』

彫刻部

- 7.樋口史華『空 II』

工芸部

- 8.伊藤嘉輝『円筒モール蓋物』
- 9.小名木絵千翔『tulp』
- 10.眞城亜紀子『花紋様』

写真部

- 11.越山勇『重力と風の造形』
- 12.坂井征栄一『水を刻む』

会友賞

絵画部

- 1.青木勇治『トワイライトB』
- 2.菅恵子『記憶』
- 3.草野順子『好き勝手』
- 4.古畑由理子『ケルト物語 うずまく草地(ドン エンガス)』
- 5.松枝美由紀『白昼夢I』

版画部

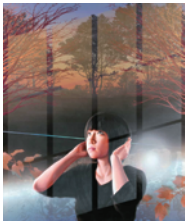
- 6.下井美智子『破壊』

工芸部

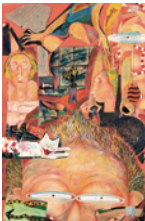
- 7.運天裕子『南風の杜』
- 8.岡本ゆう『灰釉鎬楕円皿』

写真部

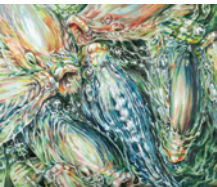
- 9.橋本光一郎『Brand New Day』



1



2



3



4



5



6



7



8



9